

# 令和 7 年度事業計画

学校法人武蔵野大学

## 1. はじめに

現代社会はAIの進化やDXなどの技術革新、グローバル化、地球温暖化、武力紛争など様々な変化や課題が地球規模で渦巻いており、将来を予測することが困難な時代が続いている。また、国内の私立学校の環境は、急激な少子化が進む中、私立大学を運営する全国567の学校法人のうち100を越える法人が債務超過によって経営困難な状況にあり、統廃合が加速度的に進むことが避けられない情勢である。

こうした中、本法人は、法人経営の持続可能性を確実にすることを目的とし、本法人の目指す姿を明示した「学校法人武蔵野大学グランドデザイン（以下「グランドデザイン」という。）」を令和5年度に策定し、グランドデザインに照らして第一次長期計画（令和2年度～令和11年度）を補正した上で、令和7年度より開始する第二期中期計画（令和7年度～令和11年度）を策定した。

グランドデザインの実現に向け、本法人はどのような状況下であっても、建学の精神「仏教の根本精神である四弘誓願を基礎とする人格教育」に基づき、設置校の特色ある教育研究を積極果敢に展開することで、仏教思想のもつ現代的な意義と可能性を世界に発信することを目指すとともに、ウェルビーイング社会の創造及び形成に貢献する人材を育成、輩出する。

また、益々厳しくなる経営環境のなかで、今後10年50年を展望しながら「法人の持続可能性を確実にする」ため、「改革とチャレンジにより成長する大学になる」を本法人経営の基本的な考え方とし、急速に変化する社会情勢を上回るスピードで適正な改革を確実に遂行する。健全なガバナンス体制の構築と維持、安定的な財政基盤の確立、計画的な施設整備、DXの推進、有為な役員及び教職員の確保・育成、戦略的な広報展開及び透明性のある情報公開等を通じ、教育研究活動等を魅力的に展開し、社会貢献を図りながら、持続可能な法人経営を確実にする。

これらを踏まえ、補正後の第一次長期計画に沿って諸施策を実行しているところであるが、限られた資源を最大限有効に活用していくためには、中長期財政計画に基づき、的確な財政運営を行っていくことが必要である。令和7年度事業計画は、グランドデザイン、補正後の第一次長期計画及び第二期中期計画に基づき、令和7年度に取り組む内容をまとめたものである。

## 2. 各設置校の教育方針

武蔵野大学 ・大学院	<p><b>① 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</b></p> <p>武蔵野大学は、ブランドステートメント及び教育目的に定める人材を育成するため、授与する学位ごとに卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定めます。</p> <p>また、本学で学ぶすべての学生が、多様な人々のなかで「アクティブな知」を獲得し、創造的に思考・表現する力を備えて、世界の課題に立ち向かうため、以下の力を身につけることとし、各学科のディプロマ・ポリシーにて具体的な方針を示します。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 [知識・専門性]：学びの基礎力を基盤とした専門能力</li><li>2 [関心・態度・人格]：他者と自己を理解し、自発的に踏み出す力</li><li>3 [思考力・判断力]：課題を多角的に捉え、創造的に考える力</li><li>4 [交感力・発信力]：多様な人々のなかで、自らの考えを表現・発信する力</li></ol> <p><b>② 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）</b></p> <p>武蔵野大学は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる力</p>
---------------	---

	<p>を身につけるために、以下のように教育課程を編成します。</p> <p>初年次からの全学共通基礎課程「武蔵野 INITIAL」では、視野を広げること、スキルを身につけること、行動力を持つことを学ぶ科目群で、ディプロマ・ポリシーに示す1～4の力につながる学びの基礎力を養います。それを基盤として、学科科目では、専門能力を高めながら、世界の課題に立ち向かうために普遍的に求められる力を身につけられるように段階的、体系的な科目配置を行います。教育課程の実施にあたっては、「問う」「考動する」「カタチにする」「見つめ直す」という4つのステップを繰り返しながらともに学び、成長するという本学独自の学びのスタイル「響学スパイラル」の実践を通じて学びの効果を高めていきます。</p> <p><b>③ 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）</b></p> <p>武蔵野大学は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえた教育活動を実践するため、以下の者を受け入れます。</p> <p><b>【求める学生像】</b></p> <p>本学の建学の精神、教育目標を理解するとともに、育成する人材像に共感し、教育課程に積極的に取り組む姿勢を持つ者</p> <p><b>【受け入れる学生に期待する能力・態度】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 [知識・専門性] 各学科の教育を受けるのに必要な基礎知識を備えている</li> <li>2 [関心・態度・人格] 他者と自己を理解し、自発的に踏み出す意欲を持つ</li> <li>3 [思考力・判断力] 課題を多角的にとらえ、創造的に考える意欲を持つ</li> <li>4 [交感力・発信力] 多様な人々のなかで、自らを考え表現・発信する意欲を持つ</li> </ol> <p><b>【入学選抜の基本方針】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学部・研究科の教育目的に相応しい人材を多面的に審査・評価する</li> <li>・ 基礎学力と専門教育に関係する教科の理解度、並びに人物の適性等について審査・評価する</li> <li>・ 学力だけでは見出すことのできない能力や意欲、将来の可能性等を高校在学時の活動状況等から審査・評価する</li> </ul>
武蔵野大学 中学校・高等学校	<p><b>① 育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「明るい知性」と「豊かな情操」とを兼ね備えた「聡明にして実行力のある人物」であること。</li> <li>・ 「人の幸せを願う心」「自己中心、自己絶対視を改める心」「正しい判断力」「良き社会人として通用する自立心」をもつ人物であること。</li> <li>・ 何事にも真摯に取り組み、社会の幸せを希求する教養溢れる自律した人物であること。</li> <li>・ 論理的思考力を身に付け、課題を正しく理解して解決を目指して挑戦できる人物であること。</li> </ul> <p><b>② 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各教科とも学びの基盤となる「知識と技能」を十分に習得できるように編成する。</li> <li>・ Howに留まらず Why を重視する学びを实践、論理的思考力を育成する。</li> <li>・ 宗教教育を拠り所の一つとし、課題解決のための探究活動を実施する。</li> <li>・ 探究活動について、課外活動も積極的に実施する。</li> </ul> <p><b>③ 入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本校の教育を受けるに足る資質と能力が十分にある生徒。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人格形成のための六つの徳目「布施・持戒・忍辱・精進・禅定・知恵」の実践に共感する生徒。</li> <li>・ 常に挑戦し続け、変化を恐れず、社会貢献するために自立する気持ちのある生徒。</li> </ul>
千代田中学校・高等学校	<p>① <b>育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自他ともに心豊かに生きることの出来る社会の実現を希求する人物である。</li> <li>・ 真のオーナーシップとグローバル性を持つ人物である。</li> </ul> <p>② <b>教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人生の目的 (Purpose)を見つけるため、PBL／SBL の学習を通じて、Why にこだわる学びを実践し、実社会で生きて働く知識の習得と活用を目指す。</li> <li>・ 多様性 (Diversity)を重んじ、相手の考えを尊重できる真のコミュニケーション力を養う。そのために4技能を意識し、国際社会で通用する語学力を育成する。</li> <li>・ 挑戦 (Challenge) を楽しみ、失敗から学び続ける姿勢を育成する。</li> <li>・ データを的確に読み、論理的に物事を考える姿勢を育成するため、ICT や AI を活用した最先端の学びを追求する。</li> </ul> <p>③ <b>入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ チャレンジすることを楽しみ、世界に貢献しようとする姿勢を持つ人</li> <li>・ 相手を否定せず、多様性を認めることが出来る人</li> <li>・ なぜ学ぶのかという目的意識を持ち、高い学力と広い知識や教養を身に付けるために意欲的に取り組む人</li> <li>・ 本校の教育内容を理解し、入学後も勉学に励み、世界に貢献する姿勢を持つ人</li> <li>・ 様々な活動（生徒会活動、研究活動、資格取得、課外活動）に積極的に参加し、入学後もそれらの活動の成果が期待できる人</li> </ul>
武蔵野大学 附属幼稚園	<p>仏の心を大切にし感謝のできる子どもに 健やかな心と体をもつ子どもに 豊かな感性をもつ子どもに 意欲的に遊ぶ子どもに 友だちと認め合う子どもに</p> <p>具体的活動</p> <p>① <b>みんなで仲良く仏様の教えを身につける。</b> 仏教行事や伝統行事などを通じて、慈悲の心、利他の心を育み、あたりまえの暮らしを大切に、自然と感謝の思いで手を合わせる子どもを育てます。</p> <p>② <b>感動し、想像し、自由に表現する力を育てる。</b> 豊かな自然や動物との触れ合いから、優しさや思いやり、いのちのすばらしさを学びます。</p> <p>③ <b>仲間とともに創り出し、一緒に育ちあう。</b> 思い切り体を動かしながら、バランス感覚や持久力、集中力を育てます。</p> <p>④ <b>好奇心を持ち、新しい世界を知り、未来をひらく心を育む。</b> 遊びや様々な体験から新しい世界を発見し、探求し続ける心を育みます。</p>

武蔵野大学 附属有明こ ども園	<p>「響き合う保育」の教育理念の下、一人ひとりの個性を大切にし力を発揮させながら、子ども同士、子どもたちと保育者、保護者が関わり合い育ち合うことを目指す。具体的には以下の3つの取り組みをとおして、小学校からの学びに主体的に取り組む姿勢と、予測困難な時代に必要な「生きる力」の基礎を育む。</p> <p>① <b>思う存分遊び込み、生きる力を身に付ける</b> 自ら「遊び込む」ことで、ものの不思議さに気づき、好奇心・探究心を育む。また、工夫して遊ぶ楽しさや達成感を味わうことが自信につながり、“生きる力”の根源でもある自己肯定感を高める。</p> <p>② <b>本物に触れ、豊かな感性を育てる</b> 武蔵野大学各学部と連携して、学内外の各分野の専門家による“わくわくプログラム”で本物に触れる体験を通して、豊かな感性を育む。</p> <p>③ <b>仏の心を大切に</b> 浄土真宗本願寺派の大学附属こども園として、生命の尊さに気づき、万物の恵みに感謝できる、心優しい子どもを育てる。</p>
-----------------------	---

### 3. 各設置校及び法人の取組

#### (1) 武蔵野大学・大学院

##### チャレンジA ウェルビーイング社会の創造に貢献する Creative な実践者の輩出

全学のアセスメント・ポリシーや卒業満足度アンケート、DP、ルーブリック評価、キャリア教育科目等、現行の指標、評価基準、教育内容についての現状分析を行い、今後の方向性や方針について検討を行う。また、卒業生在籍企業との接触を強化すると共に、卒業生SCAに関する情報の精査、分析等を行い卒業生との連携体制構築に向けた検討を開始する。

##### チャレンジB スチューデント・サクセスを実現する響創的な学修の推進

建学の精神を涵養する自校教育の在り方、建学関連の取組活性化について検討を進めるとともに、響学スパイラルに基づきつつ、教育構造の再編とそれに伴うカリキュラムの再構築、授業形態の見直しのための枠組み、AI活用等の先進的な教育手法の拡充と展開、留学等の海外経験の促進策を具体化する。また、入学前・初年次教育の実効性を高める枠組みを策定するとともに、スチューデント・サクセス実現のための学生支援体制の構築を進める。

##### チャレンジC MUのブランドに共鳴する学生の安定的な確保

APを満たす質の高い学生を安定的に確保するため、多面的かつ効果的なデータ分析に基づき、入試区分別の目的を明確にした戦略を策定し、各施策を展開する。

中高大連携策として、同一法人校及び龍谷総合学園関係校との関係強化、本学の教育コンテンツを活かした高大接続プログラムの実施校の増加、高校との情報交換・共有、指定校の選定及び入試と連動した高大連携事業を推進する。

入試広報においては、スチューデント・サクセスを実現した学生やそれに向けて成長していく学生ストーリー（ジャーニー）及び、響創的な学修メソッドの教育事例等を戦略的に広報展開し、武蔵野大学への志願度の向上を図る。スチューデント・サクセスをキーワードとした入試広報を通じて志願者を獲得するための入試制度及び実施体制の見直し・改善を行う。

また、中学校・高校、予備校、受験生の保護者に対しても充実した広報展開を行う。関係強化高校を設定し、訪問・ガイダンス・広報物送付等の広報活動による関係強化を図る。高校・予備校との広報活動について一元管理できるデータベースを構築、教職員で共有し、相互に連携した広報活動を行う。

入試施策の具体的な検討にあたって、法人としての情報収集、分析能力を高めるためのIR機能の強化を円滑かつスピーディーに行うとともに、分析結果を報告するだけでなく、入試施策に活用する仕組みを構築する。

### **チャレンジD 多様な学生・教職員が集い、Creative な実践者を育む体制の整備**

世界のウェルビーイング向上に寄与する大学としてDEIを推進するため、基盤となるセンター設置の検討などを進める。多様な学生の活動支援をより積極的に行うため、学生活動支援センター設置の検討をはじめ、留学支援・留学生支援の施策決定などを実施する。教職員の多様性の促進のため、働きやすい環境整備・基幹教員制度導入・海外大学とのクロスアポイントメント契約体制の準備に取り組む。キャンパスにおける学生の居場所の充実と多様な学生への配慮に向けて、キャンパス整備の体制づくりの検討を行う。

### **チャレンジE 新たな教育市場と価値創出**

グローバル市場における価値創出に向け、知財ポリシー策定や共同研究プロジェクト等の開催に係る枠組み作り、諸外国における教育ニーズ調査等を通して、市場開拓の方向性を策定する。

また、通信教育の新コース設置準備のほか、生涯成長学習講座の新システム稼働、学部学科・研究科の改組に向けた課題整理、教室リソースに依存しない教育形態に係るあるべき姿の検討等により、新たな学びを提供するための土台作りに着手する。

各学科の計画については、教学審議会が進捗の把握・支援体制を行う。

## **(2) 武蔵野大学中学校・高等学校**

各教育プログラムの充実化に向けて、社会貢献に関わる教材発掘や指導案の作成、生徒の自学自習力の習慣化を促す学習システムの構築、中学理科授業における実験実習の積極導入に取り組む。教員の学級運営力・授業力向上のために、十分な研修や授業研究を取り入れ、教員の育成と能力の研鑽を進める。学外広報の強化を図り、募集定員の充足を目指す。

## **(3) 千代田中学校・高等学校**

中学校と高等学校の接続を踏まえた新コースとカリキュラムを実施する。外部機関、外部人材との連携を強化し教科指導力の向上を図る。教員の授業力と協働性の向上のために、更なる授業研究や研修を進め、教員の育成と組織体制を確立する。戦略的な広報活動や研究活動等に必要な施設を整備していく。

## **(4) 武蔵野大学附属幼稚園**

社会・地域ニーズを捉えた新たな特色ある教育プログラムの構築及び展開、教育学部幼児教育学科との更なる連携、並びに預かり保育や課外活動等の充実により、保護者及び地域の方々の幼

稚園への満足度、信頼度の向上を図る。園生活・保育の見える化及び広報発信を強化し、本園の特色を分かりやすく園内外に積極的に発信する。

園舎内部の改修や遊具の更新により教育環境を整備し園児が快適かつ安心安全に過ごせる環境の充実を図る。

## （５）武蔵野大学附属有明こども園

園児募集は１号３歳児の定員60人確保を目標として、継続的に取り組む。また配置基準の見直しにより増える必要な人材を確保する。

教育・保育面では特長であるわくわくプログラムを拡充するとともに、地域のニーズに合わせて担当教員等と連携して内容の見直しを図る。

## （６）法人

法人の絶え間ない改革と安定した成長・発展を支える「法人ガバナンスの改善・強化」及び「内部統制の整備」に引き続き取り組み、令和７年４月施行の改正私立学校法に対応する。併せて、改革と発展の原動力として「教学ガバナンスの再構築」及び「法人・教学のD X化」を軸に、以下を重点として取り組む。

- ① 建学の精神の堅持及び未来への継承を支える法人・教学一体の推進体制を構築する。
- ② 私立学校法改正に対応した法人ガバナンスの改善・強化と大学・中高設置校の教学ガバナンスの再構築に向けた関連規程の整備・検証を行う。
- ③ 事務局各部署の適正人員配置に基づく長期人事計画を策定・運用し、組織の活性化を図る。また、資格別研修プログラムの体系化・制度化により職員の能力向上を図る。
- ④ 法人広報戦略に基づく広報展開及び広報体制の強化により、法人広報と入試広報を一体的に推進し、重要施策の選択と集中により重点的かつ効果的な広報を展開する。
- ⑤ S I C（縁バースキャンパス）や武蔵野大学カンファ・ツリー・ヴィレッジ・センター設置等の100周年記念事業を起点に、次の10年50年に向けた土台を築くため、ステークホルダーを巻き込んだインフラ整備や各種プロジェクトの発展的な事業を検討・実施する。
- ⑥ 同窓会データベースの安定的な運用及びシステムの見直しにより、同窓会の活性化に向けた情報発信力を強化する。
- ⑦ 長期財政計画（10年間財政計画）の継続的な更新並びに資金運用の多様化及び固定資産の有効活用により、安定的な財政基盤を確立する。
- ⑧ 学校法人武蔵野大学危機管理マニュアルの更新・適切な周知により、危機管理の有効性を確保した災害対応力を向上させる。
- ⑨ 武蔵野キャンパスマスタープラン、有明キャンパス設備更新プラン、千代田キャンパス建替スキーム等を検討し、長期施設設備等整備計画に基づく計画的な施設等整備を進める。
- ⑩ 「学校法人武蔵野大学D X推進基本計画」に基づき、各部門のD X化を着実に推進する。